

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		福津市地域交通体系協議会
開催日時		令和6年6月27日（木）10時30分～12時30分
開催場所		福津市役所 別館1階大ホール
委員名		(1) 出席委員 古賀秀策(辻美貴善・山浦淳輝)、江口正男、吉住信哉（田主学）、塩川浩一、紺屋良治、山口尚志、蒲生守、高橋祥之、香月肇光、鈴木裕介、中村一枝、中尾文則、富松享一、長野健二、青谷哲也 (2) 欠席委員 高瀬徹二
所管課職員職氏名		(都市整備部都市計画課) 都市計画課長：安永紳一郎 都市政策係：福原雄貴、三船浩史
会 議	議 題 (内 容)	○報告事項 ・令和5年度の実績について ・西鉄バス「津屋崎～鐘崎線」について ○その他
	公開・非公開 の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	2名
	資料の名称	・第1回福津市地域交通体系協議会 次第 ・資料1 令和5年度の実績について ・資料3 西鉄バス「津屋崎～鐘崎線」について
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
		記録内容の確認方法
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
○会長あいさつ 鈴木会長による挨拶。会議録の確認。協議会成立宣言（16 名中 15 名出席）。会議公開の了承（傍聴 2 名）。参考人（西日本鉄道株式会社池田課長） ○福津市地域交通体系協議会の開催 ○報告事項 ・令和 5 年度の実績について ＜事務局説明＞資料のとおり説明 ＜ 質 疑 ＞ 蒲生委員 次回の事績報告の際に、バス停毎の利用実績を追加してほしい。 図書館前バス停に、簡易的なベンチを設置してほしい。 事務局 次回以降はバス停毎の利用実績も報告する。管理上簡易的なベンチは設置できないが、固定式のベンチも検討していく。 辻委員 ミニバスの目標値はどの程度か。 事務局 現在の目標は利用者数 85,000 人。 会長 収支率の目標はいかがか。 事務局 公共交通網形成計画では、全体 19.8%としている。 辻委員 次回の報告では、資料の中に目標値も記載いただきたい。 事務局 承知した。 ・福津市地域交通体系協議会（法定協議会）開催 （福津市地域交通体系協議会（法定協議会）会議録参照） ・西鉄バス「津屋崎～鐘崎線」について ＜西鉄バス説明＞資料のとおり説明 ＜質疑＞ 蒲生委員 令和 3 年 10 月に路線変更した 1-2 路線は海岸沿いの観光路線と新たな住宅団地を通る重要な路線。ミニバスが運行できない日曜日にも運行しており非常に有難く感じている。利用者の少なさ、赤字額については理解するが、廃止した場合の観光資源や地域の将来的な交通網も考えて頂きたい。代替交通としてミニバスが運行する場合、日曜日はなく、どちらかと言えば福祉的な利用になるため、海岸路線は維持できない。 資料では冬場(2 月)の調査結果のため、夏場の利用者実績も含めていただきたい。また 1-2 路線の赤字額について、令和 3 年度の路線変更費および毎年の運行維持費については市から補助されているはずだが、補助系統だけでも維持できないのか。 西鉄バス 路線の維持は区間利用人員をみて判断している。路線バスは 365 日運行するため、季節的な利用や観光利用であれば、観光バスや貸切バスが手段のひとつとしてある。赤字額補填を頂いているが、赤字補填があっても人手不足により維持は困難と判断している。	

蒲生委員	苦勞されているのは理解している。路線維持についての協議はできるのか。路線変更して3年目と実績もまだ十分ではないで、利用者の見込みを提示してほしい。利用者見込み上、大型バスが必要なら大型バスを持っているのは西鉄バスさんしかいないので、力を借りなければならない。それが臨時バスなのか、朝晩だけなのか、土日だけなのか、など1つ1つ審査したい。データを提示して頂かなければ判断できない。世界遺産に通じる重要な路線なので、もう少し詳細なデータを提示してほしい。
山口委員 事務局	廃止に対して市は対処を考えているのか。 バス対策協議会へ廃止本を提出させてほしい、と提出の1週前に相談があり、その当時は廃止ではなく減便と伺っていた。6月に協議をした段階で廃止と言われたため、現状は検討中である。交通体系協議会で話し合った上で決めていきたい。
山口委員 事務局	今回協議する話ではないのではないかと。次の協議会で一案をもって協議するべきではないかと。 理想はそうだが、まずは知ってほしい。仮に次回の協議会で報告・検討であれば時期的に間に合わないと判断した。市と西鉄バスだけで決めて良い問題ではないため、協議会としても審議していただきたい。
長野委員	昨年度末に聞いた際、減便の検討と伺っていたようだが、当初から廃止する予定だったのか。
江口委員	社内で確認させてほしい。異動直後で詳細が定かでない。
長野委員	1-2路線は令和3年10月に変更したばかりの路線。この路線は西福岡5区を通るが、約500世帯あり、多くが子育て世代である。将来的に通学利用を見込めるが、どう判断しているのか。それとも人が足りないので廃止します、なのか。公共交通を担う事業者として来年4月に廃止はやめて頂きたい。
江口委員	運転手がいらないのが大前提であるため廃止したいが、時期や色々なことは今後の協議により柔軟に対応していきたい。
池田課長	子育て世代がいることは把握しているが、現状乗務員が不足し危機的な状況であり、現在の利用で判断せざるを得ない。地元の方には急な話ではあるため、津屋崎～鐘崎線の全部廃線ではなく、一部区間廃止や一部代替交通の転換を検討いただきたいというお願いをしている。今後の需要見込みで存続するのは厳しい。
会長	江口委員は今後協議により柔軟に対応すると言われ、池田課長は存続できない。と言うように聞こえるが、どちらが正しいのか。
池田課長	今回のご提案が絶対ではない。しかし乗務員が不足しているのは事実であり、運行できる便数は減っていく。その中で運行する箇所は協議できるが、今回廃止で提案している区間を存続するとなれば他の区間や路線を廃止せざるを得ない。
蒲生委員	廃止した場合、残った路線の路線拡充（廃止したバス停に停車など）は可能か。
池田課長	要員および利用状況による。
長野委員	1-2路線は好調と聞いていたがデータはあるのか。

事務局	西鉄バスから毎月利用者数の報告を頂いている。夏場の8月が最も利用者数が多く、冬場1・2月が最も少ない。利用者は毎年増加しており、路線が定着しつつあると認識している。
長野委員	廃線の判断に、宗像市の状況や他の路線との利用者数比較が必要。また仕業数(平日)12名となっているが、例えば8名にする等の目標はあるのか。今人がいないので廃線します、では議論の余地がない。1-1路線の一部を1-2路線に振り替えるなどの対応はできるのか。具体的な数値と今後の方針を示していただいて協議の上、判断したい。次回お願いします。
中村委員	今回の協議会は報告とのことだったが、市としては今後こういった事を考えてあるのかお伺いしたい。
事務局	廃止となった場合、ニーズ調査を実施し、他の交通モードには迷惑をかけるが代替路線を再編する必要がある。早急にしなければならないため、存続(減便)となるのか廃線となるのかの2つの可能性を踏まえて進めなければならない。ミニバス運行事業者には既に話はしているが、ミニバスだけでは足りないとも感じている。
長野委員	来年4月となっているが、市の準備ができるまで待つことは可能か。
江口委員	どちらか問われれば、可能ではある。しかし逼迫した状況である。
紺屋委員	4月から福岡駅に就任したが、昨年までは鹿児島県の指宿枕崎線という、赤字ローカル鉄道の廃線を進めるための協議会に携わっていた。指宿枕崎線では、検討会を立ち上げ、住民と協議をしている。それでも方向性が決められない状況。長野委員が言うように、短い時間で結論付け、判断するのは、誰も責任がとれない。時間をかけて話し合わなければ、誰も納得できず、言い合いになる可能性もある。また変更する場合も告知期間が必要になるので、時間をかけて変更していかないと大きな問題につながりかねない。
辻委員	私も指宿枕崎線の検討会には以前参加したことがあり、自治体や住民が一体となって検討され、大変良い印象がある。一方で運転手不足が全国的にあり、休日出勤・長時間労働で全産業的に安い賃金。運転手の頑張りによって地域の交通が支えられている状況。利用者の需要面も大事だが、供給面も理解しながら、西鉄バスと協議し良い案を作っていただきたい。
会長	まずは委員からもあったが、データが明確に示されることで判断できるようになる。1-2路線は観光路線と生活路線を兼ねているので、季節変動も見た上で判断する。次回の協議会で提示していただきたい。一方で、西鉄バスの苦しい状況も理解しなければならない。さらには廃止の判断となる路線を作ってしまった我々も反省する必要がある。この手の問題は三位一体となって解決しなければならない。人員が少ない中でどの程度運行することができるのか、どのような運用であれば廃止を避けられるのかを協議会含め検討していく。
○その他 (意見等なし。会議終了)	